

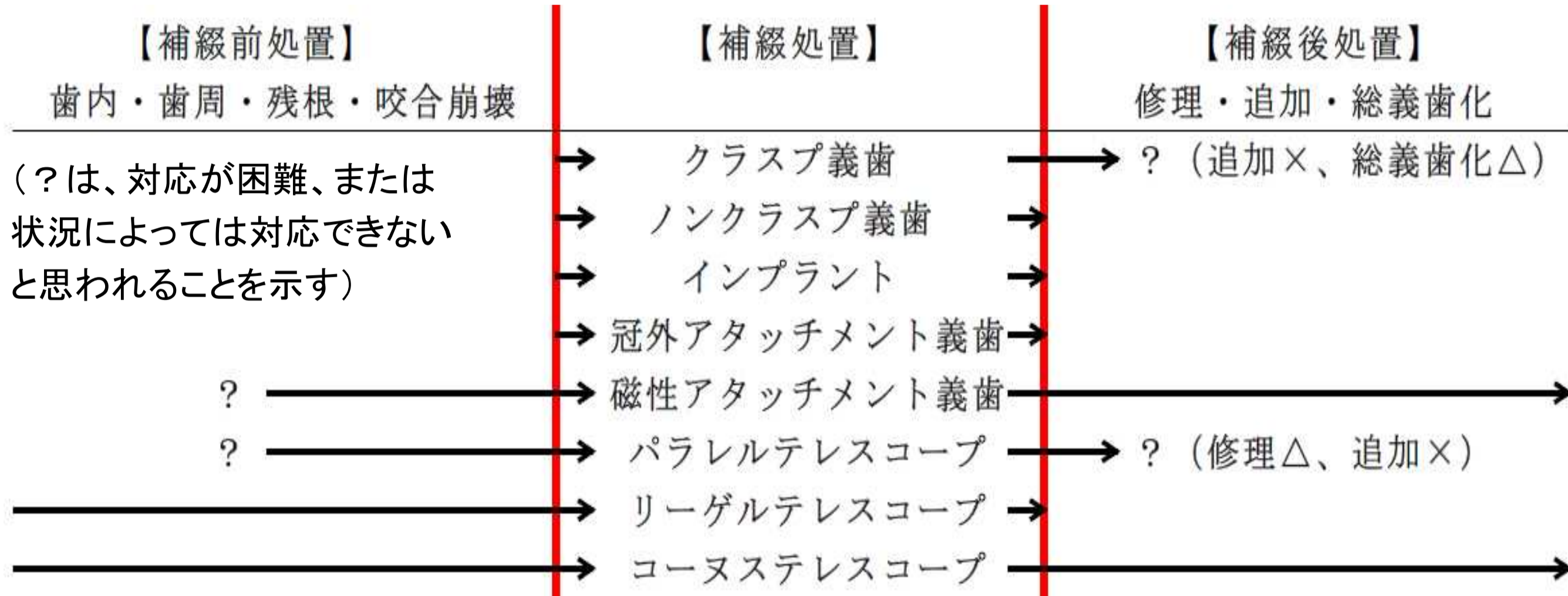
## 緒言

ドイツのケルバー教授によってコーヌステレスコープ冠(以下コーヌスと略)が開発され、半世紀以上が経過した。コーヌスを使った治療は、補綴前処置・補綴後処置も含めて幅広く対応でき、対象にできる症例は非常に多様で、補綴前処置や補綴後処置を一連の流れ・考え方の中で扱うことができない他の補綴法とは一線を画すべきである。

コーヌスは、その幅広い対応力ゆえに、包括一貫治療システムとして用いることが可能と思われるが、少なくとも日本ではこれまで、コーヌスが包括一貫治療システムとして位置づけられることはほとんどなかった。

そこで今回、少なくとも日本ではあまり議論されてこなかった、コーヌスの本質的な臨床的意義、価値などを、再考・提言してみたい。

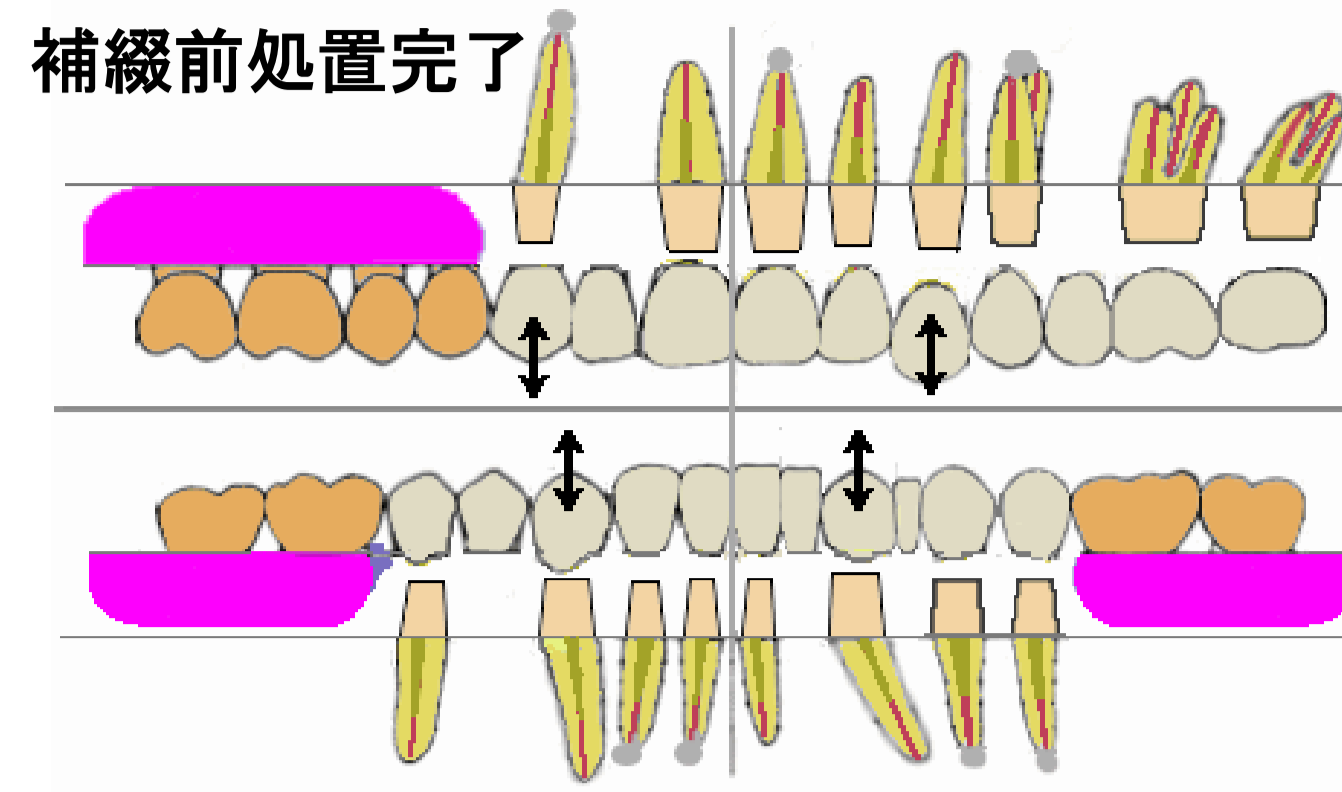
## 治療過程概念



コーヌスを、包括一貫治療システムとして使うことの流れ・利点。

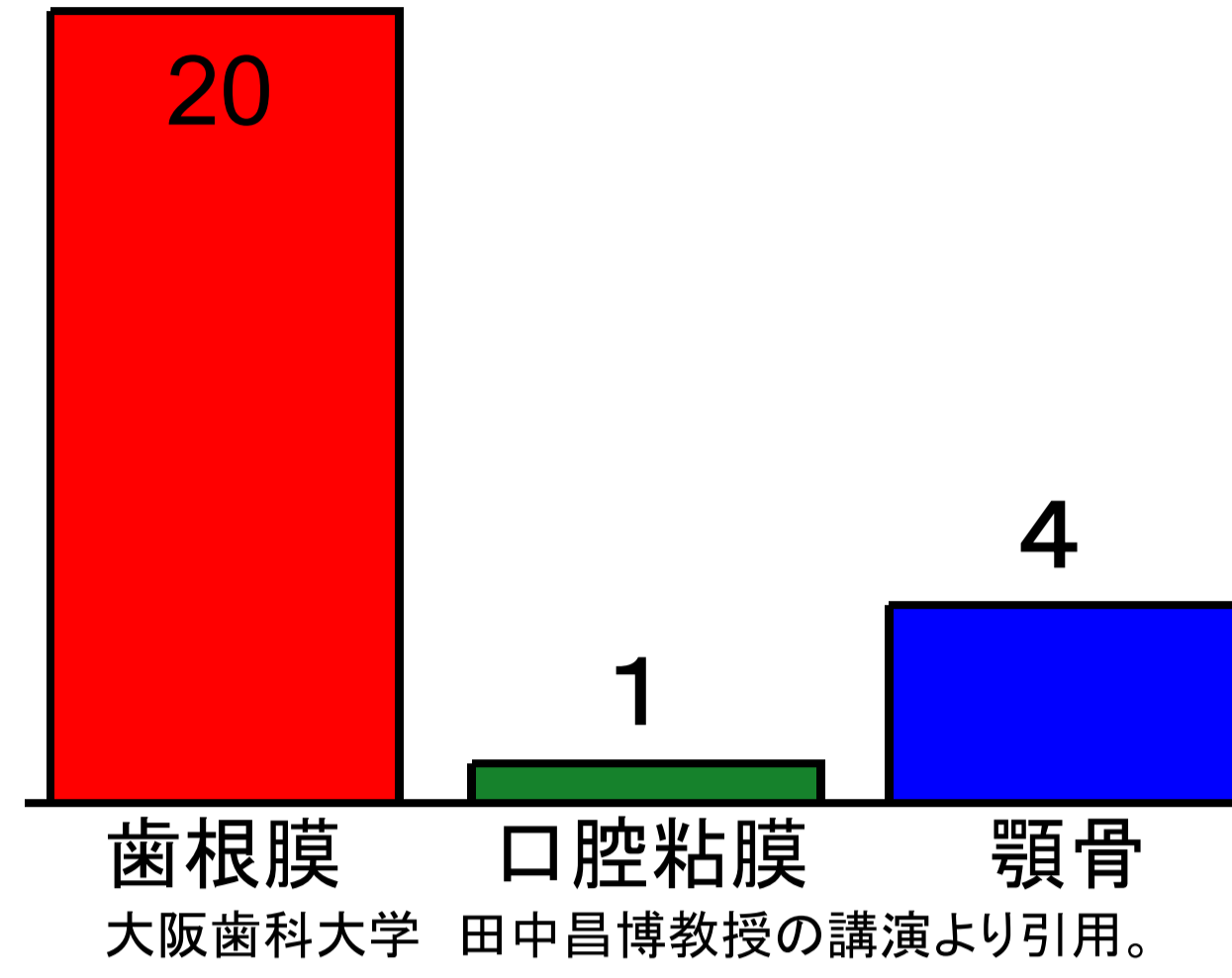
- 補綴前処置** : 『グラグラ・ガタガタ』といった、重度歯周病や多数歯齲蝕・多数歯欠損等による咬合崩壊を伴ったような難症例に対して、コーヌスタイプの着脱式プロビジョナルレストレーション(以下、コーヌスプロビと略)を使うことにより、個々の歯を救済しながら咬合関係を再構築できる。
- 補綴設計** : 完成したコーヌスプロビを、最終補綴物の原型として使用する。形態や顎位が、その生体に適合していることを確認、あるいは修正できるので、予知性の高い最終補綴物を作製できる。
- メンテナンス・追加コーヌス** : 内冠脱離や補綴物本体の破損等に対するメンテナンス性も良好である。また、最初が部分コーヌスであった場合、他の部位の補綴が必要となった際にはその部位にのみ追加コーヌスを作成し、新旧コーヌスを連結することで、『コーヌスの追加によるフルコーヌス化』が可能である。
- 補綴後処置・総義歯化** : フルコーヌスの場合、個々の歯牙は自然脱落するまで、あるいはそれに近い動揺度を示すようになるまで使うことが可能で、自然脱落や抜歯の後には、外冠の内面を利用して簡単にレジン追補することができる。それを繰り返していくことにより、さらには上顎の場合には口蓋プレートを追加することによって、困難な過程を経ずに、総義歯化することが可能である。

## コーヌスプロビによる補綴前処置



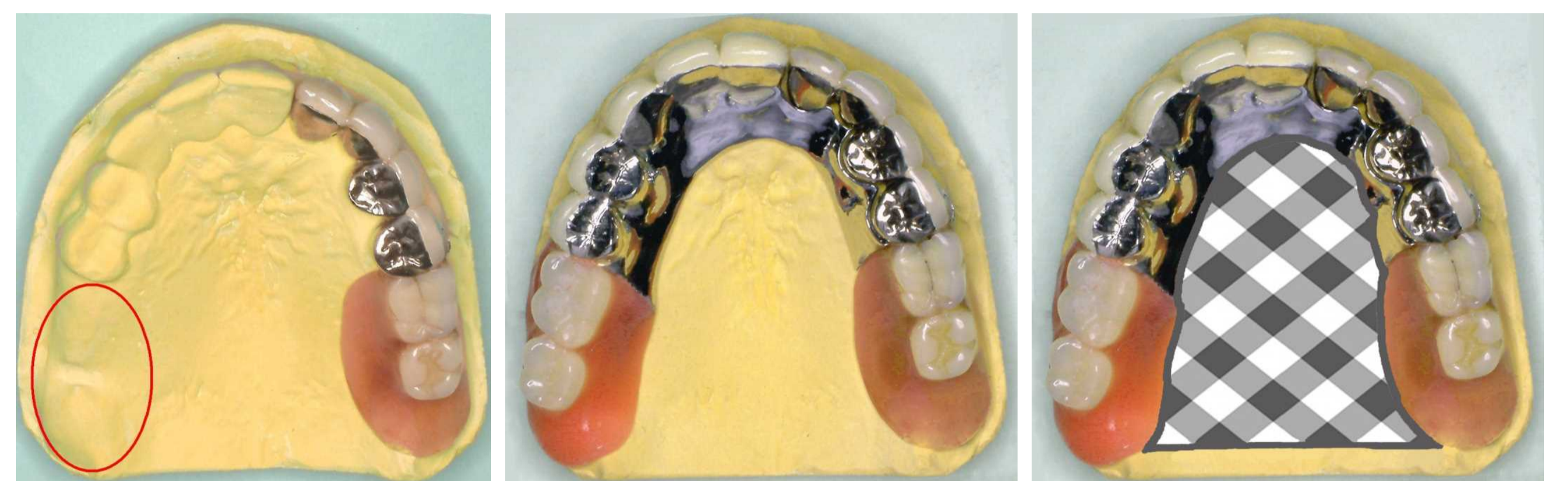
コーヌスプロビの完成。個々の歯に過剰な力がかからなくなっていることに加えて、着脱式であるがゆえに口腔内の清潔さが格段に向上。歯周病が劇的に良くなることで、ほとんどの歯の動揺は少なくなってくる。

## 補綴処置



コーヌスで対応できる症例や、具体的な作製法等は、ここでは省略するが、口腔粘膜が感じる咬合圧の鋭敏さを1とすると、歯根膜の鋭敏さは20、インプラントを想定したと思われる顎骨の鋭敏さは4とされている。従って、コーヌスを含めた各種テレスコープ法は、装着後、咬合力を鋭敏に感じ取ることができ、『よく噛める』という患者感覚にもよく合致していると思われる。

## 補綴後処置1 (追加コーヌス)



63歳女性。367欠損を、245歯台のコーヌスで補綴。約10年後、赤丸で示した部分が欠損し、補綴の必要に迫られた。レントゲン等での精査の結果、残存歯の歯槽骨の若干の吸収が見られ、わずかに動揺もあったことから、連結固定も兼ねて、残存歯をすべて利用した追加コーヌスを作製し、旧コーヌスと連結した。今後、歯周病等によって支台歯が失われることになっても、口蓋プレートを付与することで、容易に総義歯にまで改造することができる。

## 補綴後処置2 (修理 ex. 内冠再装着)

コーヌスは、着脱式であるがゆえに、前装レジンの完全張り替えや、ほとんどの破損に対する修理が可能である。以下に、支台歯の齲蝕による破折に起因する内冠脱離の対応法を例示する。

79歳男性。コーヌス装着後、約10年が経過。『内冠は支台歯によっても位置が規定されるが、外冠によっても位置が規定される』というコーヌスの特性を活かした。



## 考察

コーヌスは、補綴前処置・補綴後処置の両方において、多くの他の補綴方法では対象にできない多種の治療手法の利用が可能で、幅広い症例において、さまざまな口腔内の状態に対応できる。また、コーヌスプロビという手法を用いることで、動揺歯でも動揺を抑制してから利用でき、歯周病や齲蝕等によって支台歯が徐々に脱落していても総義歯にまで改造してそのまま使い続けることができるという、他の補綴方法では容易に行うことができない特性を持っている。

以上のことから、コーヌスを、『補綴処置』のみの狭い概念で論じるべきでなく、補綴前処置・補綴後処置の双方に非常に有効で柔軟な治療手段を持つ、包括的かつ生涯一貫的な治療システムとして理解すべきであると考えられる。